

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100400		
法人名	有限会社 シルバーケア夢		
事業所名	グループホーム サンサン丸		
所在地	沖縄県那覇市首里末吉町3丁目60番地1		
自己評価作成日	令和元年 9月9日	評価結果市町村受理日	令和元年 12月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.daysevice-yume.jp/
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和元年 10月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○近隣の散歩に行ったり、ショッピングセンターや大空保育園の行事に参加するなど、外出する機会が多い。外出することで身体機能を高める事ができ、気分をリフレッシュすることができる。さらに昼夜逆転を防ぎ、夜間良眠に繋がる。
 ○食事を三食とおやつを手作りで提供している。味覚、視覚、嗅覚、聴覚等の五感を刺激して、食欲をそそる食事の提供を目指している。また利用者様の状態に即した食事の提供(ペースト食やキザミ食)している。また便秘解消のためのヨーグルトやスムージー、食物繊維、オメガ脂肪酸を取り入れた食の在り方を力を入れている。
 ○体重測定を行い栄養状態を把握し、エンシュアや高カロリーゼリー等、主治医や御家族と連携しながら身体向上、維持に努めている。
 ○好きな時、好きな時間に入浴することができる。○歯科医師と連携し口腔ケアの維持向上に努めている。口腔内の清潔を保持するとともに、嚥下の状態や食事の形状を検討することができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、全職員に「どんな介護をしたいか」、「自分だったらどんな介護をしてもらいたいか」について考えてもらい、今年、理念を見直している。同時に方針も見直し、「主役は利用者」や「チームケア」等が追加されている。運営推進会議は利用者と家族、行政、近隣グループホーム管理者と保育園園長、民生委員児童委員、有識者も出席して服薬支援等の事業所の課題についても話し合い、事業所運営に反映させている。毎年、利用者調査を実施し、利用者の意向で週2回パンの日、週1回麺の日を設定し、パンはスープにつけて提供する等の工夫をしている。歯科と連携して舌苔を除去する利用者もいる。利用者の痛みの訴えには医療と連携して訪問マッサージや薬の調整をして痛みを和らげている。利用者全員が外出できる機会を多く設定し、保育園との連携や外食時の店との調整にも配慮している。ドライブで遠くへ出かけるときは下見を実施し、半数以上の家族の協力が得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度、新しい理念づくりを職員全員で行った。どういう事業所にしたいか、どんな介護をしたいのか話し合ってもらって新しい理念を作成した。	今年度、全職員で「どんな介護をしたいか」、「自分だったらどんな介護をしてもらいたいか」について話し合い、新しい理念を作成している。理念は、サンサン丸の事業所名にちなんで太陽の船をイメージさせたデザインにしている。同時に方針も見直され、「主役は利用者」と「身体拘束0」、「チームケア」が追加されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員や那覇市地域包括支援センターとの連携や保育園との交流。 松島青年会などがエイサーを見せに来てくれる。	運営推進会議の委員として保育園の園長が出席し、保育園の祭りや夕涼み会に利用者が全員参加している。保育園児が散歩時に事業所前を通るときは、利用者が手を振って見送っている。青年会が毎年エイサーを披露し、月1回は読み聞かせをするボランティアが来ている。市のポイント制度を活用して利用者とのユンタクや差し入れをする地域の方もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	那覇市地域包括支援センター松島と連携しながら、認知症サポーター養成講座の開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	知見者より服薬管理表や情報を提供していただきながら、服薬に関するリスクマネジメントを行う。	運営推進会議は利用者と家族、行政が毎回出席して年6回開催されている。近隣グループホーム管理者と保育園園長、民生委員、知見者が出席し、事故等も含めた実績を報告し、委員間で意見交換をしている。他の利用者の薬を飲ませてしまった事例に、助言等を得て予防の徹底に努め、誤薬0を継続している。議事録と外部評価結果は公表されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	那覇市グループホーム連絡会に参加し、那覇市にも参加していただき、ケアの実情や困難事例を話しあっている、	市と地域包括支援センターの職員が毎回運営推進会議に出席し、那覇市グループホーム連絡会に市職員も参加して情報を共有している。行政からはメールで研修等の情報提供があり、事業所は困難事例について相談している。今年度、法人内研修として地域包括支援センター職員を講師に迎えて「認知症サポーター養成講座」を開催している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関を施錠しない介護の実践を行う。身体拘束や権利擁護の研修を行っている。虐待・身体拘束防止、事故再発防止対策委員会より身体拘束等の適正化のための指針がある。	身体拘束等の適正化のための指針を整備し、玄関は施錠していない。身体拘束防止適正化委員会が定期的開催され、毎回、勉強会も実施し、議事録は全職員に回覧して周知されている。家族に説明し同意を得て、夜間帯のみセンサーを使用する利用者については、解除に向けての検討会を実施している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケース会議で虐待の定義やヒヤリハットで事例検討をしている。また、法人内研修でグループワークを行い、虐待の芽を摘む意識を高める様に努めている。 3カ月に1回虐待・身体拘束防止、事故再発防止対策委員会で話し合っている。	虐待防止対応マニュアルを整備し、虐待の定義やセンサーマットの使用が身体拘束になるか等について会議で話し合っている。職員は、外部研修の「施設における高齢者虐待を考える」や法人内研修の「高齢者虐待について」等の研修を受講し、虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修や勉強会の参加及び開催		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、御家族様が納得いくまで話し合いを行う。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様にアンケートを行い、ニーズに応えている。	毎年、利用者調査を実施し、聞き取りが困難な利用者は家族に聞いている。利用者の意向で、週2回パンの日と週1回麺の日を設定し、パンはスープにつけて提供する等の工夫をしている。今年に入浴について調査を実施し、浴槽を希望する利用者が数名おり、検討する予定である。家族の「チアノーゼ等がわからないのでマニキュアはやめてほしい」等の要望にも対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を反映させる仕組みを作っている。互助会の行事への参加を呼び掛けている。飲み会等話しやすい環境を作り、意見を吸い上げを行い働きやすい環境づくりに努めている。	法人互助会の行事や事業所独自の飲み会を実施して、職員が意見等を言いやすい雰囲気作りに努めている。職員の要望でシャワーキャリーを買い替えている。利用者支援に関しては、申し送り情報で共有し、頻尿の利用者の居室に夜間はポータブルトイレを置くことで排泄時の問題が改善され、車椅子の利用者のベッド下には台を置くことで移乗がスムーズになった。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休や育児休暇の導入、超勤や処遇改善等などの賃金を反映させ、職員が向上心を持てるように努めている	職員に対して、年1回(夜勤者は2回)の健康診断を実施している。法人互助会のバーベキューやボーリング大会、忘年会の行事や事業所独自の飲み会があり、職員の働きやすい環境整備に努めている。就業規則にもとづいて、職員は年次有給休暇や産休、育休等行使している。法改正による年次有給休暇の義務化についても就業規則に明示して職員に周知することに期待したい。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修委員の選任や勉強会の開催等		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県認知症グループホーム協会、沖縄県介護支援専門員協会に理事に就任し、同業者との連携や交流を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、ニーズの掘り起こし等、時間をかけて御本人様の話の傾聴する。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントをしっかり行い、ニーズの掘り起こし等、時間をかけて御本人様、御家族様の話を傾聴する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問診療や医療機関との連携、薬剤師や薬局とも連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントやケアプランの作成、ケース会議等で検討している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	カンファレンスを行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様と利用者様の関係性が途切れに様な支援を目指している。 お正月やお盆の際には、利用者様が帰宅できるように支援や援助を行い、御家族様との絆と大切にしている。	地域社会での関係性の把握は、家族から聞くことが多い。外出時に利用者の自宅近くをドライブして、自宅の前を通ることがある。利用者の模合(モイ)仲間や元同僚が事業所を訪ねてくることもあり、その際に利用者の馴染みの人や場等の情報を得ることもある。テンプス館から情報を得て、年に1~2回は全員でウチナー芝居を観に行くこともある。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出時に利用者様がお互いに気遣い、車いすを押している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時支援を行い、地域に繋いでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	きめ細かいアセスメントを実施している。	事業所独自に作成した12項目のきめ細かなアセスメント様式を用いている。更にセンター方式のシート「今の私の姿です」を活用して、私の思いや好きな食べ物、行きたい所等、8項目について居室担当者を中心に聞いている。ケアプラン更新時に再度アセスメントを実施している。把握が困難な場合は、日々の支援の中で意向を汲み取り、家族から聞くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	きめ細かいアセスメントを実施している。 利用者様の希望により、TVや鏡台、お仏壇の持ち込みを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定、体重表、排泄チェック表、支援経過表等を記録することで日々の体調管理を行っている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員はもとより、医師、看護師、訪問看護、御家族様や、その他の関係機関と連携を行っている。	3か月毎にモニタリングを実施し、サービス担当者会議に本人と家族、必要時は医師が出席している。医師が欠席するときは文書で連絡している。長期目標を6か月、短期目標を3か月とし、定期的に計画を見直し、状態変化時は随時に見直している。本人からの痛みの訴えに、週2回の訪問マッサージを計画に位置づけ、医師と薬の調整をし、痛みが改善している利用者がいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務ミーティングやケース会議等で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援や個別支援、お正月やお盆の帰省の外出支援等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	那覇市地域包括支援センター主催のがんじゅう体操に参加したり、地域の祭りや保育園のお祭りに参加している。がんじゅう体操に参加された方が読み聞かせボランティアさんとして活躍している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	時々利用者様の病院受診に同行し、日々の経過を報告している。 また、体調不良や急変があった場合には、主治医に書面や口頭で報告し連携を図っている。	かかりつけ医の受診支援としては、通院は基本的に家族が対応しているが、利用者の外来受診へ同行することもある。その際は日々の経過を書面や口頭にて主治医に報告し、受診結果を家族に伝えている。年1回の特定健診も全員受診している。週1回訪問看護を利用し、2週に1回訪問歯科を利用している。歯科衛生士の口腔ケアを受けてアドバイスも得ている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し、日常的な健康管理の連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にカンファレンスをお願いし、医療連携をしており急変時には同行し、状態や状況を報告している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明者の中に重度化した終末期に向けた指針を明記し、利用者様及び御家族様に同意を得ている。 医師や医療関係者を含めたカンファレンスを行い、終末期に向けた取り組みを行った。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援については、利用者や家族へ重度化や終末期に向けた指針の説明を行ない、同意を得ている。法人内の看取りケアの研修を職員6名が受講している。終末期に向けては、利用者や家族のニーズ、状況に合わせて、医師や医療関係者を含めたカンファレンスを行なっている。今年度は利用者2人を看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡先や御本人の状態、薬の内容を作成し、緊急事態に備えている。また119番への通報訓練や急変時のマニュアルの沿って、ロールプレイをして慌てることがないよう、緊急時に備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内に水や電気・食料10日分を備蓄するシステムがある。 年に数回防災訓練や火災訓練を行い、非常時に備えている。	災害対策については、日中の想定で年2回火災訓練を実施している。1回目は職員への予告なしで行ない、反省点を2回目の訓練へとつないでいる。防災マップを廊下に貼り、職員に意識付けさせている。施設内に水や米、インスタント食品等の食料10日分が備蓄されている。災害訓練に家族1名が参加している。	日中を想定した避難訓練の実施のみとなっているため、夜間想定の実施が望まれる。地域に向けて訓練への参加呼びかけを工夫し、地域住民への協力体制の取り組みに期待したい。

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務ミーティングやケース会議等で検討し、職員間で話し合っている。オムツや下着を見える所に置かない等、プライバシーに配慮している。また、利用者様には解りやすく丁寧な説明を心掛けている。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保については、利用者へ馴れ馴れしくならないように敬った言葉遣いに気を付けている。オムツや下着等は見える所に置かない配慮がされている。個人情報保護方針、および利用目的が掲示されていない。	個人情報保護方針、及び利用目的の掲示が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や外出を利用者様の意向に沿うように働きかけてる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間を基本的に決めてはいるが、その日の体調や利用者様のペースに合わせて調整を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り、整容、髭剃り等の支援、理容室との連携を図り定期的に支援を行っている。 また、美容介護などを行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	五感で感じる食事の提供を心掛け、台所で利用者様と一緒に食事を作ったり、香りで食欲をそそるような支援、また目で楽しんで下さるよう盛り付けの研修をしている。	食事は3食とも職員が調理し、食事時間は本人が起きてきてから等、利用者のペースに合わせている。下ごしらえや下膳、食器洗いに参加する利用者が3人ほどいる。食事形態は個々に合わせて工夫し、スプーンで潰せるように柔らかく煮ている。イベント時には刺身等も提供し、重箱への盛り付けやデコレーション等を職員で考えて行ない、食事を楽しめる工夫に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事介助、声かけや数回に分けての提供等の食事支援、また配膳の工夫や水分量が足りない場合は、水ゼリー、エンシュア等の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの実施、訪問歯科との連携、舌苔の除去や口腔指導をお願いしている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を実施、声かけや時間案内で排尿をコントロールしている。 排泄記録は主治医に報告し日々のケアに繋がっている。	排泄の自立支援については、排泄記録を参考に、個々に声掛けや時間案内を行なっている。4名の方は日中、夜間ともオムツ使用、5名の方はトイレで排泄されている。そのうち1名は夜間ポータブルトイレを使用している。便秘気味の利用者へはオリーブオイルやヨーグルト等の摂取を促し、便秘予防への取り組みも行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質、イモ類などバランスの取れた食事の提供、おやつ提供、また、ヨーグルトや牛乳等の乳製品の取り入れ、散歩等の軽い運動を行っている。また必要に応じて食事の形態を普通食・アチビー・きざみ・ペースト等に分け提供している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回の入浴だが、利用者の気分や時間に合わせた、自由な入浴となっている。	入浴は週3回となっているが、利用者の希望や気分によって入浴回数や時間等の対応をしている。入浴を拒否する利用者には別の職員が声かけし、時間や日を変え、無理強いすることのないようにしている。今年度は、利用者に入浴時間や浴槽に入りたいか等の調査を行ない、さらに入浴を楽しむことができるよう取り組んでいる。美容介護としてフェイスパック等も実施している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様が安心・快適に休まれるように居室内温度の調整や入眠されるまで寄り添う事を心がけている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬箱、服薬チェック表を作り、飲み忘れがないように服薬管理を行っている。	服薬支援については、薬箱へのセットや個々の服薬チェックリストを作り、飲み忘れがないように服薬管理をしている。半年前に誤薬があったため、運営推進会議での意見をもとに、薬をセットする人、与薬する人を別々の職員で行ない、与薬する人は又別の職員へ確認するといったダブルチェックをして、服薬支援の在り方を改善することで誤薬0を継続している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に食事作りや食器洗いや洗濯物たたみを手伝っていただき、利用者様が御自身の役割と感じて下さる。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族との関係性が途切れないように、御家族との外出支援も行っている。	外出支援は、利用者全員で外出できるように支援している。ドライブ等は利用者の身体的な負担も考慮し、施設から1時間以内の場所を選択している。外食先の店とは事前に時間等を調整し、遠出するときは下見をしてトイレや休憩できる場所を確認し、家族の協力も得て無理なく外出を楽しめるようにしている。近所の保育園児の散歩時は玄関先に出て手を振り、見送っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和元年11月27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に好きな時に電話をしてもよいのだが、今が手紙や電話のやり取りをする利用者様がない。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好きなものを居室に持ち込みしていただいている。 安心できる環境づくりに努めている。	居心地のよい共用空間づくりについては、食堂兼居間にソファや畳が置かれ、入居者がゆったりと過ごせるように工夫されている。大きな字でトイレを表示し、テレビの音も入居者同士の会話を邪魔することなく配慮されている。玄関前に季節のイベント(ハロウィン)の飾りが施されている。小型の室内犬が利用者の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で1人でTVを観られたり、利用者様同士で歌を歌われたりできるように配慮している。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好きなものを居室に持ち込み、リラックスできる環境づくりに努めている。家族の写真、ラジオなどを好きなものを置いていただいている。	居心地よく過ごせる居室の配慮については、自宅で使っていた家具等を持ちこんでもらい、家族の写真や家族手作りの本人の写真集等を飾ったりし、本人が居心地良く過ごせるように工夫されている。居室の表示は利用者と一緒に作っている。居室に利用者の見やすい時計やカレンダーの設置、及び利用者が職員を呼ぶときのために鈴を置くなどの工夫にも期待したい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	徘徊がある方には、椅子に名前を貼り自分がここに座ってもいいと感じていただける工夫をして喜んでいただけている。またトイレの場所がわからない方へは、お部屋をトイレの前に準備し、大きな字でトイレを記載したり、ドアを開けっぱなしにすることで放尿や失禁を防ぐことができる。		